

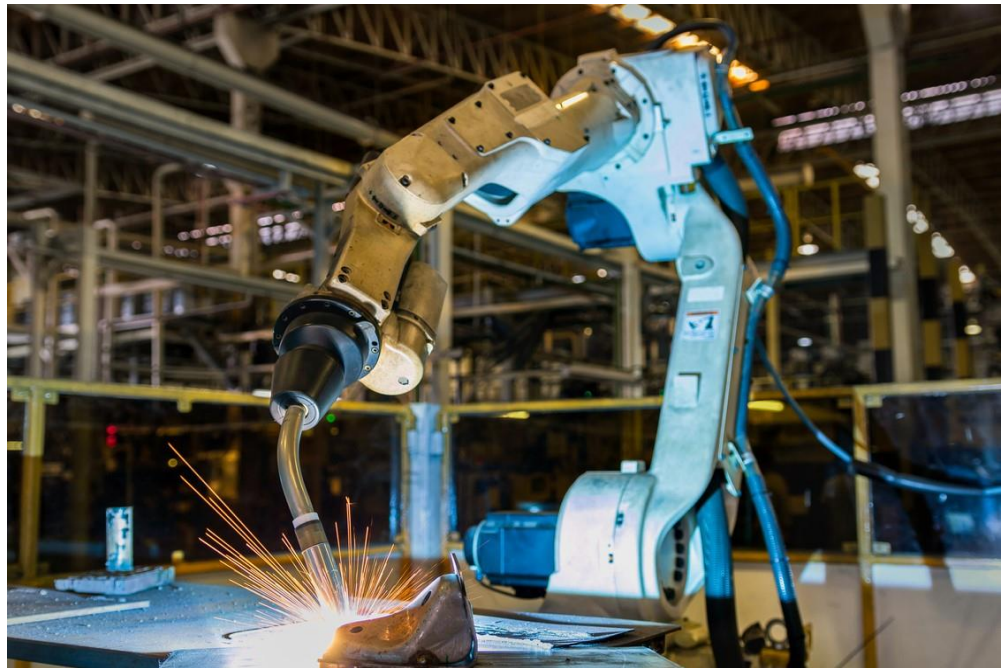
ロボテック戦略月次レター（2021年8月の振り返り）

# 産業用ロボット受注は堅調

半導体関連銘柄は引き続き好調、デルタ株感染拡大やその影響を注視

8月の世界株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は、年初からの強い流れを受け、引き続き上昇しました。ロボテック戦略も、世界株式と同様に推移しました。

グローバル経済は2020年のコロナの影響から立ち直り、2021年に入り産業活動は本格的な回復局面へと向かい、産業用



ロボットの受注も高い水準が続いています。景気 2021年の本格的な景気回復局面の中、産業用ロボットの受注も高い水準が続いています。景気

回復はまず中国が先行し、これに米国が続き、そして出遅れていた欧州や日本にも回復の広がりが見え始めてきました。

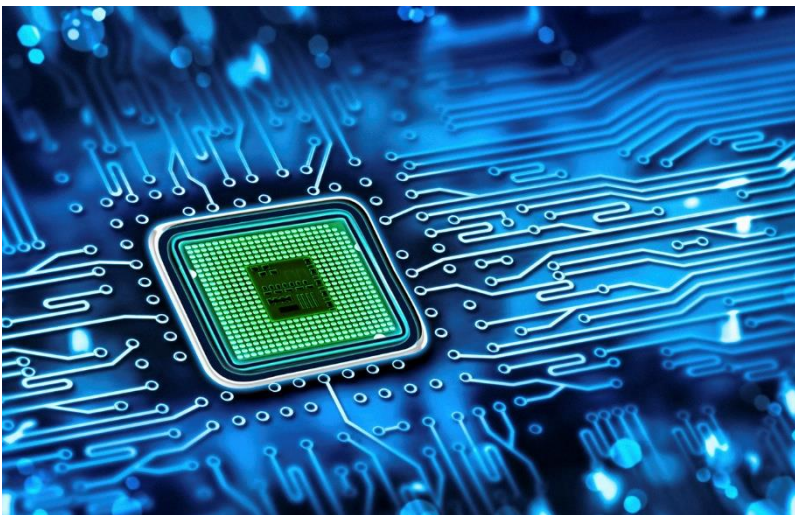
日本工作機械工業会によれば、日本の7月の工作機械受注額は前年同月比93.4%増の1,349億円でした。9カ月連続で前年実績を上回っており、単月としては2018年12月以来の高水準となりました。国内外で設備投資が拡大していることが背景にあり、特に半導体、自動車などの設備投資が活発になっています。

なお、世界の主要中央銀行が金融緩和策の縮小検討を表明し始め、FRB（米連邦準備制度理事会）は年内のテーパリング（量的緩和の段階的縮小）開始を示唆しています。テーパリングの開始に伴い一時的にボラティリティの高い局面があるかもしれませんが、長期金利の上昇は緩やかなものにとどまり、株式市場への影響は限定的と考えられます。

このように、世界的に経済活動は引き続き堅調ですが、当社では新型コロナウイルスのデルタ型変異株の動向とその影響については注視しています。

## 半導体関連銘柄の堅調なパフォーマンス続く

当月は半導体関連銘柄が引き続き堅調なパフォーマンスとなりました。人口知能(AI)に用いられる半導体



体に強みを持つエヌビディア、自動車・産業関連向け半導体企業のインフィニオン・テクノロジーズ、オン・セミコンダクター、マイクロチップ・テクノロジーなどがプラス寄与となりました。

一方、金属加工自動化に用いられるファイバーレーザーを製造するIPGフォトリクスはマイナス寄与となりました。中国における顧客からの一時的な受注減速が背景にあり、今後の動向を注視しています。

なお、当戦略では引き続きファナックなどの日本のロボット関連企業に注目しています。

半導体関連銘柄の堅調なパフォーマンスが続いています。

## ヘルスケア関連銘柄への長期的見方は変わらず

世界的にデルタ株感染拡大の影響が広がりつつありますが、ヘルスケア関連銘柄全般については、長期的にポジティブな見方は変わっていません。2020年のコロナ感染拡大からの回復局面は継続すると見えています。

なお、手術支援ロボット大手のインテュイティブサージカル、仙骨神経刺激療法（過活動膀胱の治療に用いられる）に関する開発、商品化を行っている米医療技術企業のアクソニクスについては一部売却しました。両社ともコロナ禍で緊急性の低い手術延期の影響を受けやすく、2021年に入ってからでは施術件数は大きく回復していましたが、デルタ株の蔓延に伴い年後半にかけて再び手術が先送りされる可能性もあるとみて、組入比率をやや引き下げるのが妥当と判断しました。

## 米バイデン政権、2030年目標で新車5割を電動車に

また、バイデン大統領は8月上旬、米国の新車販売に占める電気自動車（EV）など電動車の比率を2030年に50%に引き上げる大統領令に署名しました。ハイブリッド車は含めませんが、欧州連合（EU）とは異なり、エンジンを併用するプラグインハイブリッド車（PHV）を電動車に含めています。バイデン政権は、2030年に2005年との比較で米国の温室効果ガス排出量を50～52%削減する脱炭素目標を掲げており、今回の大統領令はその目標を推進する柱のひとつと位置付けています。今後米国では、EV関連で官民あげて技術開発や自動化などへの設備投資が加速すると予想されます。

### 関連リンク

[日本の先行指標に明るさ](#)

[米ヘルスケア銘柄が堅調: ワクチン接種の更なる拡大で、手術支援ロボット市場は年後半にも正常時の水準に回復へ](#)

[日本の自動化銘柄が好調: ロボット受注など日本の産業活動の先行指標、世界経済回復の恩恵を受けて堅調に推移](#)

[ヘルスケアセクターが堅調: 新型コロナワクチン普及による経済再開に伴い、手術支援ロボットの需要拡大へ](#)

[半導体不足の影響は?: 影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に](#)

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[フラムリントン株式: 注目のテーマ株式](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクリーマー

### アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスお

よび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年3月末時点で約8,690億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年3月時点で5,740億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

#### 投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

#### 【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-22258